



白熱した松之山ふる里かるた大会（18日）

「あつたー」

新春松之山ふる里かるた

『松之山く湯よし米よし心よし』『はいー』。松之山地域の歴史や文化を題材にした新年恒例『新春松之山ふる里かるた大会』を18日、松之山公民館で開いた。地元親子25人が参加し、3グループに分かれ熱き対決を繰り広げた。

「松之山ふる里かるた」は23年前、松之山の魅力

歴史文化を題材に

を伝えようと旧松之山町時代の町教育委員会が、読み札・絵札デザインを地元学生や住民から募集し制作。地域文化や自然、歴史が詠み込まれ、松之山の鳥「アカシヨウビン」や伝統行事「婿投げ」、樹齢百年余の「美人林」など題材に46組の絵札と読み札が完成。同かるた大会は新春恒例イベントで毎年開催し20年余り続いている。

当日は幼児・小学低学年、小中高学年、中学・高校・一般の3グループに分かれ、三回戦行い、トータル枚数で競った。読み札が読まれると会場は緊張感に包まれながらも笑い声が響き、時には悔し涙も見られ白熱したひと時となった。幼児・小学低学年の部の齊木朝陽くん（8）は53枚も獲得。「いっぱい取れて嬉しかった。家で練習してきた良かった」とこっこり。親子参加の佐藤風花さん（13）と母・美保子さん（46）は中高一般の部で共に39枚で同順。「来年は差を付けないと。頑張るぞ」と、早くも次回大会に向け意欲を話していた。